



TEL 〇七六六二五二五五〇  
FAX 〇七六六二五二五五〇  
E-mail okshoten@poem.ocn.ne.jp

平成十六年十一月二十日  
〒九三三〇八〇四  
高岡市問屋町四十  
有限会社 沖商店発  
2015.11.20

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょうか』『そんな人生の根本的問題を皆様と一緒に考えたい』と思ひ、皆様の心に一石を投じて、意見を頂く機会になることを願って本通信をお届けしている次第です。どうか忌憚の無い意見を寄せてくださいませ。様お願ひ申し上げます。

一 中国の経済成長

今月の8日(月)〜13日(土) 中国は大連経由で烟台・威海へ出張しました。夏場の畑の雑草のように凄しい発展ぶり、行く毎に様子が変わっています。

以下は7日の北日本新聞に掲載されていた記事です。【北京6日共同】人民元相場の上昇を狙った巨額の投資マネー流入に対する懸念が高まる中、中国政府が違法な外貨資金の摘発に本腰を入れている。市場では人民元切り上げ観測が再燃、円などアジア通貨が対ドルで買われており、一連の摘発も通貨改革に向けた準備の一環の可能性がある。

中国国家外貨管理局と公安省は九月までに、全国で地下銀行や違法な外貨取引拠点八十六箇所を摘発、百九十四人を逮捕した。摘発した違法取引の金額は数十億人民元とされる。また、一〜九月期に計七十六社の金融機関と企業を調査、規則違反の外貨取引一億二千万ドルを摘発したという。

投機マネーの大量流入を間接的に裏付けているとみられるのが、外貨準備高の急増だ。

中国の九月末の外貨準備は五千四百四十五億ドルで、昨年末に比べ千百十二億ドルも増加。だが、増加要因の貿易黒字は原油輸入の増加などから一〜九月期で計二十九億ドルと小幅で、海外からの直接投資の実行額も四百八十七億ドルにとどまる。

外貨準備の増加分との差額にかなりの投機資金が含まれるとみられ、上半期だけで四百億ドルが流入したとの推計もある。

人民元相場は、対ドルで極めて狭い変動幅に維持する「管理フロート制」をとっており、大量の投機マネーが流入すると中国人民銀行は相場維持のため元売介入を続けざるを得ない。結果的に国内の通貨供給量が高止まりし、最近の利上げを含む引き締め政策の効果を薄めるなど経済運営上の問題になっている。中国紙金融時報によると、国家外貨管理局の担当者は「ことしは貿易黒字が縮小または赤字になっているのに外貨の急速な流入が続いており、マクロ金融政策にも影響している」と話している。

記事は以上ですが、私のような素人でも、「人民元を買って占めておけば絶対儲かる」と思っています。それが違法なら、せめて今のうちに土地や建物やマンションを買っておけないかと思ひます。但し中国では、土地は自分の所有物として永久に権利があるのでなく、四十年間占使用できる借上げ権利(四十年後はどうなるか分からない)だとのこと。

そして投資は、早ければ早いほど効果が大きく、そのピークは北京オリンピック、あるいはその数年後に開催予定の万国博覧会まで、それが終われば一旦反動があるかもしれません。でも長い目でみるなら、中国はその後勢いは衰えるものの、着実に経済発展を行くだろうと私は思ひます。

但、投資するのには問題がないわけではありません。それは、世界人口の四分の一、十三億といわれる人口の内、そんな経済発展の恩恵に浴しているのは、沿海地方のごく一部の者だけで、ほとんどの者が以前のままの生活を強いられていて、その貧富の差が極端になってきていることです。

以前なら周り中みんなが貧しい生活をしていて、妬み羨むことはなかったのですが、働けど働けど貧しさから抜け出せない傍らで、ごく一部の者達だけの豪華優雅な生活ぶりをみせられた者たちが、どんな考えを持ち、どんな態度をとるか分かったものではないですね。しかも経済発展の裏で、もし不正が行われそれが発覚しようものなら、大問題となり、暴動からクーデターにまで発展し、社会情勢が一変する可能性が甚だ大きいと私は思ひます。

この点が中国への投資の上で、一番懸念される事柄であり、今後、中国が安定した経済発展して行く上で大いに配慮して行かなければならない点だと思ひます。

二 青木功のゴルフ殿堂入り

十六日のテレビ、十七日の新聞紙上で「十五日、米フロリダ州セントオーガスティンでゴルフの世界殿堂入りの式典が行われ、プロゴルファーの青木功選手が日本男子で初めて殿堂入りを果たした」との報道がされていました。以下、新聞より抜粋。

青木功は言葉を詰まらせながらスピーチした。「学校を出たら、必ずプロゴルファーになると決めていた。大会に出てお金ももらえず、外国にも行ける。それが貧しい農家に生まれた僕の夢だった」と、先ず英語で切り出した。日本語の演説では、ジャック・ニクラウス(米国)と死闘を繰り広げて二位となった一九八〇年の全米オープンで「人生最高のプレー」と振り返った。

「いまだに勝てないのは、ジャックとワイフのチエ。チエの愛称で呼ばれている宏子夫人は異国での挑戦を陰で支えてきた。献身的な妻への感謝をこんな言葉で表した。夫が声を震わせてスピーチするのを、妻は涙を流しながら聞いていた。

式典後のレセプションでは大勢のファンにサインや握手を求められた。「今夜は最高においしい酒だ。飲みすぎるかも」。家族と抱き合い、青木は乾杯を何度も繰り返した。

そして「自分の生きる道、進む道を一生懸命にやれば、(このように素晴らしい名誉は)後から着いてくるものかもしれない」と喜びを語った。

輝かしい功績の裏には、筆舌に絶する努力が必要だと言ふ見本を改めて見せて頂いた一件でした。

三 息子のついで

にこにこ通信第百十一号で御紹介頂きました社長の子の昌幸と申します。7月に沖商店に入社しては四ヶ月が経ちました。今回は社長にお願いして本通信の一題目を頂いてこの四ヶ月間仕事をしてみた所感をお話させて頂きたいと思ひます。(思っていることを徒然と書かせて頂きますので、いつものにこにこ通信ほど皆様の心に一石を投じる内容ではないかもしれませんがご容赦頂きたいと思ひます)

入社して約一ヶ月間は、現在取引させて頂いているお客様へのご挨拶をさせて頂きました。最近、取扱い商品の勉強は然ることながら、お得意先様と同行したり、提出用資料を作成したり、従業員の方の手伝いをしながら修行中の身です。

営業に同行していると、中学・高校時代の通学路やよく遊びに行った友人宅の近くにお得意先様があ

ったり、取引先の担当者が実は知り合いだったりすることに気が付きました。そしてそれは私が沖商店で仕事を始めた時から改めて気が付いたのであって、お得意先様は元々以前からそこにあり、取引先の担当者は以前から沖商店とお付き合いをさせて頂いていたわけですね。即ち、自分が仕事として携わったり、関心を持って接し始めたからこそ、初めて気付いたことなのです。

ここで教えられたことは、日頃から色々な事に関心を持つていなければ気が付かないことが多くあるという怖さ、逆に多くの事に対して日頃からアンテナを張っておけば、それだけ気付くことのできるチャンスが多くあるのだということ。

また、挨拶回りの期間中は、取引先の社長様とお話をさせて頂く機会も数多くありました。

その際出てくる会話で感じられたことですが、どの社長様からも私に対して何か特別に良いことを話してあげようとか、教訓がましい格言とかいうような言葉ではなく、その人の中から自然と出てくる言葉でした。それは日頃から色々な事に関心を持っていく情報収集されながら、テレビや新聞の受け売りではなく、自分の言葉として常に持つていらつしやるからなのだと思います。そしてその社長様のこれまでの経験や考え方に裏打ちされた「深さ」を感じ、それで私には、社長としての特別立派な言葉としてでなく、その人自身の普段通りの言葉として伝わってきたのだと思ひます。

こんなことから、何も特別な事をしなくても、自分が求めるもの(商談に結びつく機会やヒント)は周りにいくらでもあるものであり、また努力次第で人の風格は自然に身に付くものであり、そういう意識を持たずに、ただなぜその機会が無いのだろうと嘆くとしたら、それはまるで「水の中で喉が渴いた」と言っているのと同じことだと思ひます。

私自身現時点ではまだ沖商店の戦力としては到底一人前とは言えませんが、現在取引させて頂いているお客様はもちろん、これから新規でお取引させて頂いたお客様、更には仕事以外で出会う人とのネットワークを大切に、これからのいろいろと勉強させて頂きたいと思ひますので、今後とも宜しく願ひ致します。沖昌幸。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌幸

個人メール E-mail 〇七六六二五二五五〇@poem.ocn.ne.jp

にこにこ通信への意見をはじめ個人的な連絡は、個人メールへお願いします。